

## 昭和興産

昭和興産は2016年度(12月期)からスタートする次期中期経営計画の策定作業に着手した。現在推進中の中期3カ年計画に引き続き、アジアに軸足を置いた事業展開を重点テーマに掲げる方針。期間は20年度までの5カ年とする見通しで、9月末までに素案を作成し、各部署所で擦り合わせたうえで11月をめどに取りまとめる。

昭和興産は13年1月に中期経営計画を開始。2年目の14年度は売上高が前期比9.6%増の712億600万円、利益率の高い商材

が高水準だった(田淵明雄社長)ことにより営業利益は17.9%増の11億6200万円となり、初めて10億円を超えた。仕上げる年となる今年度は、国内事業と海外事業の単純合算で売上高800億円を目指す。足元では前期の収益増大を牽引したソーラーパネル用のアルミニウム型材やガス管用の輸入商材など大口のビジネスが低調な一方で、紙おむつ用原

材料、洗剤原料などが引き続き好調を維持している。(相手先ブランドによる生産)先を効果的にマッチングさせるビジネスも進展しており、今後は中国、インドネシアでも展開していく。昭和興産(上海)貿易有限公司では4月1日付で日本人スタッフを2人に増員したほか、華南地区に新拠点を設置する構想も浮上している。

## 持続成長へアジアに軸足